

令和新時代を迎えて

木古内町長

大森 伊佐緒



令和2年の新春を謹んでお慶び申し上げます。

昨年5月に、「平成」から「令和」に改元され、新しい時代を迎えました。町民の皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えのことと存じます。

さて、昨年を振り返りますと8月の佐賀県を中心とする大雨、9月の台風15号、10月には19号などにより千葉県や長野県、福島県、宮城県など被害を受けており、姉妹都市の山形県鶴岡市においても、6月に日本海山形県沖地震の発生により、被害を受けており、災害の多い年でありました。

一方、平成25年6月から継続中の交通事故死ゼロの記録は昨年2千3百日を超え、住民皆様による交通安全運動推進の成果であると感謝致します。

新幹線時代が幕を開け本年3月には5年目を迎えますが、木古内駅は北海道最初の新幹線駅として、道南いさりび鉄道の終着駅としての役割を果たしております。今後一層の利用促進と公共交通機関の維持・確保に努めて参ります。

全国的な人口減少問題に対しては、

移住定住、及び雇用創出・企業誘致を中心とした 第2期地方創生総合戦略の策定と実施に努めて参ります。

また、鉄道や路線バスなど公共交通を守り町民の足の確保に努めます。

広報・広聴では、行政からの情報発信と共に町民の皆さま方からの意見、考えを聴く制度について継続して取り組んで参ります。

道路では中央通（下町方面）の整備が始まり、住宅では道営住宅2棟目の工事に着手、工事中の港団地は6月の完成を目指しています。

産業では、当町の「はこだて和牛」が第18回北海道あか牛枝肉共励会で最優秀賞を受賞し、知名度アップに貢献しております。また、昨年創設された

森林環境譲与税を活用し、ふるさとの森整備事業を行っている他、官民一体で森林認証を取得した地元材「道南スギ」の活用を始め、「はこだて和牛」の安定的生産と供給体制づくり、「アワ

ビ・ワカメ・ひじき」などの特産品を全国に発信するなど、一次産業の振興発展に努めて参ります。

商工業では、設備投資や経営の維持などに対する助成や融資制度を引き続き実施し、中小企業・小規模企業の振

興発展に努めて参ります。

教育では、中学校と小学校の吹奏楽部が日本管楽合奏コンテスト全国大会に出場したのを始め、小・中学生は各種目で全道・全国の舞台でいきいきと活躍しており、将来を担う子ども達の成長に期待を膨らませております。また、昨年10月より幼児教育・保育の無償化を実施し、3歳以上児や3歳未満児の非課税世帯保護者の負担軽減に努めております。

姉妹都市交流では、昨年7月鶴岡市において「姉妹都市盟約30周年」記念式典が開催され、両市町の絆を深め、さらなる友好を誓いました。また、昨年は東京都江戸川区長と交流会を行うなど、今後共、交流都市の連携強化に努めて参ります。

平成26年度に始まった第6次振興計画は後半を迎え、引き続き「財政収支計画」との整合性を図りPDCAサイクル（計画・実行・評価・改善）の確立に努めます。

終わりに、本年も職員全員が総力をあげて「安全で安心して暮らせるまちづくり」を目指すことをお約束すると共に、町民皆様のご健勝ご多幸を祈念してご挨拶と致します。

また、駅前には広域観光の拠点としてオープンした「道の駅・みそぎの郷きこない」は、昨年10月に200万人目のお客様をお迎えしましたが、運営する道の駅スタッフの最高の笑顔に加え、町民が一丸となった総合力の成果と嬉しく感じております。

引き続き、インバウンド観光や町内観光の充実を図ると共に、近隣自治体との広域連携の強化、函館市や青森県周辺との積極的な連携を進め、道南全域の活性化を目指して参ります。

医療福祉では、高齢化率が高いため医療・介護・介護予防・住まい、自立した日常生活の支援を確保する「地域包括ケアシステム」の構築・推進を進め、今年が高齢者の在宅生活を支援する「小規模多機能型居宅介護施設」の整備を行います。

また、昨年公立病院の再編・統合問題が報道されましたが、町立国保病院では今後5年間の中期計画「新改革プラン」を策定し、将来にわたり健全な病院運営に努める他、国への強い要請を行うなど、安心に努めております。